



南川副

佐賀市の人口	231,664 人
南川副校区の人口	5,715 人
南川副校区の世帯数	2,181 世帯

(令和2年12月末現在)

発行／佐賀市立南川副公民館

〒840-2213 佐賀市川副町大字鹿江422-1

TEL : 0952-45-8919 FAX : 0952-45-2130

E-mail : kminamikawasoe@city.saga.lg.jp

つながる南川副 : <http://www.tsunasaga.jp/minamikawasoe/>

(つながる南川副)で検索できます。

公民館主催事業について

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度の公民館主催講座は、事前申し込みによる定員制と致します。(定員になり次第締め切らせて頂きます)

参加ご希望の方は、公民館までご連絡ください。(電話 45-8919)

また来館時には、手消毒、マスク着用をお願い致します。

第9回「成人学級」(南川副老人クラブ協力)

日 時 : 2月25日(木) 13時30分～15時00分

内 容 : 海苔漁業見学ウォーク報告会

佐賀県そして川副町が誇る海苔。町外の方に生産過程や町の様子を知ってほしいと2月22日に行った海苔漁業見学ウォークの報告会を行います。当日はもちろん、開催に至るまで有志による検討会、下見会の様子、そして何より参加者の声を皆さんにお届けします。

第7回「南川副安全安心塾(あんあん塾)」(まちづくり協議会共催)

内 容 : 新型コロナウイルス感染症について

～正しく知って正しく恐れる～

日 時 : 2月18日(木) 14時00分～15時30分

参加費 : 無料

定 員 : 20名程度

講 師 : 医師 矢野 史也 氏・矢野 和紀 氏



「原田流」リメイク教室

少しの手間とアイデアで素敵にリメイク!! ミシンは使わず、手縫いでやっちゃいます。今回は、今までどんなリメイクを行ってきたのか? 作品を通してアイデアの提供を行ってまいります。

日 時 : 3月18日(木) 13時30分～15時00分

参加費 : 無料

定 員 : 15名

講 師 : 原田 数江 氏(佐賀新聞文化センター講師)

ペッパー先生

令和2年12月23日に南川副小学校の4年生と5年生に、人型ロボット「ペッパー」が先生となり防災授業を実施しました。これはソフトバンクの協力により南川副公民館が主催して実現したものです。授業の内容は「大雨から身を守るために」、雨が降り続いたらどうなるか、次に積乱雲が近づいてきた時の3つのサイン、更に大雨から身を守るための行動などについて、ペッパー先生が授業を行い南川副公民館長がペッパー先生の助手とファシリテーターを務めました。児童のみなさんは最後まで一生懸命に話を聞いてくれました。また、授業では3回のワークを行いました。皆さんの貴重な意見を発表してくれました。児童達が防災の知識を身に付け、意識が向上したことを実感しました。今回は密を避けるためにそれぞれ個別に連続で授業を行いました。担任の先生にお話しを伺ったところ、児童達は今日の授業を楽しみにしていたそうです。児童達の目がキラキラして生き生きとした表情がとても印象に残る授業でした。



つながるって嬉しい♪ 「スマホ教室ライン編」

令和3年1月12日、19日、26日、シニア情報生活アドバイザー佐賀(SIA佐賀)さんを招き、「スマホ教室ライン編」を開催しました。初級編は用意されたスマホを使いましたが、今回は自身のスマホで参加出来たので、みなさんとても熱心に受講されていました。参加者同士友達になり、文字、写真、スタンプなどを送りあい、電話やビデオ通話も体験しました。また安全に使う為の指南もあり、気を付けながら楽しんでと声かけられました。



「これで孫とつながれる」と参加者。これを機に沢山のつながりが生まれることを期待しています。

ガンバルーン体操

令和3年1月21日の成人学級は、健康体操指導者の山岡弘美氏を招きガンバルーン体操教室を開催しました。緊張していた参加者さんも先生の軽快な語りに促されるようにどんどん笑顔になっていきました。全身をほぐしながら痛む箇所が無いが自己チェックし、ボールを使いながら転倒予防に股関節や指先、内股など動かし、筋肉を鍛えて行きました。また、コロナ禍の中で常時マスクを着用している際の息苦しさから解放できる方法も学ぶことができ、爽やかな汗と笑顔あふれる講座となりました。



館長の防災ひとくちメモ ～春一番～

気象庁では「春一番」を立春から春分までの間に、日本海で低気圧が発達し、広い範囲で初めて吹く暖かく強い南よりの風(佐賀県では7m/s以上)としています。「春一番」は春の訪れを感じさせてくれる響きではあるものの、急発達する低気圧をお知らせする防災上非常に重要な表現として言い伝えられています。海上は大シケで海難事故が発生し、空のダイヤも乱れ警戒を要する風でもあります。